Hamamatsu Museum of Musical Instruments No. 27
浜松市楽器博物館だより 2002. 4 .1

楽器のある風景 ❹ ～アフリカ・タンザニア～

アフリカの自然と音

この写真は、東アフリカのタンザニアで撮影したものである。女の子は 4 歳，男の子は 6 歳とのこと。写真で見るとおり，ばちを持つことすらおぼつかない様子だったのだが，演奏が始まると驚きを隠せなかった。

日本では，このぐらいの歳の子であれば，せいぜい 2 拍子系のリズムを，一定の速さで刻めるかどうかというところだろうが，この子たちは，それよりもはるかに複雑なリズムを見事に奏している。その複雑なリズムを分解すると，左手は 2 拍子，右手は 3 拍子。つまり，左手で 2 回たたく間に，右手は 3 回という具合だ。試してみてほしい。すぐにできた人は，このリズムを何回も訓練した経験があるか，そうでなければ，かなり恵まれた才を持っていると考えていい。

さて，みなさんも，このリズムの難易度がわかったところで考えるはずだ。「なぜこの子たちはこの歳でこんなことができるのか。」

私たちのタンザニア音楽調査の旅は，そんな驚きと問いがついてまわった。とにかく出会うリズムのすべてが，採譜がままならないほど複雑だ。独奏やあるいは二重奏ならまだなんとか譜面におとすこともできたが，3 人以上の合奏となるともうお手上げ。でも，まあこれは自分の聴音力の無さというよりも，彼らの能力の高さということで納得することとした。納得してリズムに身を委ねていると，これがまた心地よい。

いろんなことが見えてきた。まず，聴こえてくる複雑なリズムを分解して理解しようとしていた自分。分解しようとしている単位は，西洋音楽のものさしである。例えば，聴こえてくるリズムが，付点八分音符と十六分音符の組み合わせ（♫）だと頭の中で判定がくだると，強烈な吸引力でその組み合わせ以外には聴こえなくなる。でも，頭の中に描いている譜面にフィットしない音に，無意識にストレスを感じているようで，これがとても窮屈だ。理解不能と納得するか，あるいはあきらめてそこから開放された途端，ゆったりとした円運動か，あるいは大河の流れに放り出されたように体が大きく動き出す。

問いの答えがなんとなく見えてきた。この子たちは，自然の音を再現しているのではないか。風で木が擦れる音，実が落ちる音だけでなく，時には木に宿る精霊との会話も。

タンザニアは，アフリカの中でも開発が遅れている。テレビもテレビゲームも，世界にそんなものが存在することすら知らずに，子供たちは，自然の中で自分自身で遊びを開発しながら，毎日を過ごす。毎日の繰り返しで，彼らの心に自然に対する深い思いと共鳴が育つ。

アフリカの自然は厳しい。「美しい自然を守ろう」というスローガンはこの自然を前にして陳腐だし，征服しようとしても，人間は自然の圧倒的な強さの前で無力だ。結局，アフリカに暮らすということは，自然と共生することしか選択はない。この道を選ぶことで，厳しい自然の中で生きるための知恵を神から授かることができる。

自然のリズムは複雑ではない。人類が誕生したときから聴こえてくる自然の音を，タンザニアの子供たちが見事に演奏するのは決して不可解なことではない。

本当に問わなければならないのは実はこういうことだ。「なぜわれわれはこんなこともできないのか」

(M.M)

・特別展「アフリカの楽器～さがしものはここにある～」開催中！（２面）
・浜松市楽器博物館友の会設立！（４面）

特別展

Special Exhibition "Musical Instruments of Africa"

「アフリカの楽器～さがしものはここにある～」開催中！

2002.3.26[火]～5.6[月]

休館日:3月27日，4月1日，8日，15日，22日
観覧料:大人600円　中人300円　小人150円
(常設展観覧料含む)

協　力:国立民族学博物館

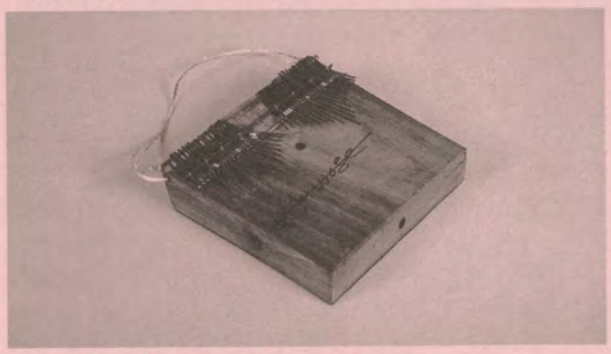
アフリカは，日本人にとって，地理的にも文化的にも最も遠い地域と考えられています。以前は「暗黒の大陸」とも呼ばれ，この大陸に住む人々の歴史や文化を想像することはほとんどなかったと言ってもよいでしょう。

太鼓を使って，声が届かないほど遠くの人と話したり，むかし話を語ったり。あるいは，使い古しのバネを使って，オルゴールのようにやさしい音がする楽器を作ったり。アフリカの楽器には，人間の知恵や思いがたくさんつまっています。

特別展「アフリカの楽器～さがしものはここにある～」では，そんなアフリカの楽器や仮面，装飾品など約150点を展示して，アフリカに住む人たちが大事にしていることを，みなさんといっしょに考えたいと思います。

それは，私たちが忘れていたことかもしれません。

あなたが探していたものが，きっとここでみつかります。



イリンバ(タンザニア)
薄いへら状の金属片を親指ではじいて音を出します。音が小さく，人に聴かせるというよりも，自分の楽しみのために演奏する楽器です。

アフリカの音と楽器

文字を持たない民族にとっては，自分たちの歴史を語り伝えるために音楽が欠かせません。

また，誕生，成人，結婚，そして死，人生のそれぞれの場面に必要な音楽や楽器を，大事に守り続ける民族もいます。それぞれの民族が，王様の象徴として，豊作を願って，神や精霊への信仰心から，楽器をつくります。

ジェンベ(マリ)
西アフリカで広く使われている太鼓です。硬い一本の木をくりぬいたワイングラス形の胴体に、ヤギの革が張られています。下半分の細い部分を両足にはさんで、両手でたたいて演奏します。ジェンベから生まれる激しいリズムにのって、躍動感のあるダンスを踊ります。

関連事業

講演会　アフリカの音と風

講　　師　各務美紀(アフリカ音楽ジャーナリスト)
日　　時　4月20日(土)　午後2時～4時
会　　場　アクトシティ浜松研修交流センター
　　51研修交流室
聴講無料　要申込3月26日より電話で楽器博物館へ

ミニコンサート　アフリカの楽器で楽しもう

演奏とお話　ロビン・ロイド(アフリカ音楽演奏家)
日　　時　5月4日(土)　午後2時～3時
会　　場　浜松市楽器博物館
　　地下1階展示室ステージ
　　入館者はご自由に参加いただけます。

トーキングドラム(マリ)
わきの下にはさみ，革を張っているひもの張りの強さを調整して，音の高さや音色を変えます。名前のとおり，お話をするために使われます。

新着資料展終了しました

会期：１月19日(土)～２月11日(月)

楽器博物館では，世界各地の楽器を計画的に収集し，様々な形でご紹介しておりますが，市民の皆様から寄贈していただく機会も多くあります。本年度も多くの貴重な資料を寄贈いただき，「新着資料展」にて一般公開し，３,737人の方々が来場されました。寄贈していただく楽器の多くは，おばあちゃんが昔使っていたものとか，誰が使っていたか分からないけど昔から家にあったというようなものです。戦禍をまぬがれ物置の隅に長年忘れ去られていたものが，博物館に来てスポットライトを浴び，第二の人生を歩み始めています。なかでも大正～昭和初期のリードオルガンやピアノが多く、そのほとんどが浜松で作られたものです。そんなことからも浜松では昔から楽器産業が盛んだったことがうかがえます。

展示室風景

左：リードオルガン
（1921年頃・西川／日本楽器製造株式会社）
右：リードオルガン
（1921年頃・日本楽器製造株式会社　横浜工場）

今回展示された楽器の中から，興味深いリードオルガンを２つご紹介します。１つは形状が西川(明治～大正にかけて日本楽器〈現ヤマハ〉とならぶ横浜の楽器メーカー)のオルガンで，銘に西川と日本楽器の名が並記されています。これは日本楽器が大正10年に西川楽器を吸収合併した後，残っていた西川製オルガンに日本楽器の名を加えたものと考えられます。もう１つのオルガンも同様の理由で，西川製オルガンに日本楽器横浜工場(普通は浜松工場)の銘が入っています。こんなところにも大正時代の激しい企業競争が見て取れます。

レクチャーコンサート『トロンボーン～甦るルネサンスの響き～』いにしえの響きに耳を傾けました

２月17日(日)14時より大阪サックバットアンサンブルをお招きし，『トロンボーン～甦るルネサンスの響き～』を開催しました。今回の演奏に用いた楽器は「サックバット」と呼ばれる400年程前のトロンボーン（演奏はその復元品）です。プログラムはトロンボーンにつながる金管楽器の歴史の紹介と全12曲の演奏からなり，会場では187人の方々が演奏に耳を傾けました。一部曲目には，当時サックバットと共に使われていたコルネットも登場し，いにしえの響きをたっぷりと堪能しました。

コルネットとサックバットの競演

第２回 浜松古楽フェスタ 演奏デモンストレーションを行いました

２月16日（土）

昨年に引き続き，第２回となる浜松古楽フェスタが開催されました。これは市内近郊の古楽愛好家主催によるもので，研修交流センターを中心に日頃の練習の成果を披露しました。リコーダーをはじめ，ヴィオラ・ダ・ガンバ、ルネサンス・フルート，リュート，チェンバロ等一般的にはあまり馴染みの少ない楽器ですが，愛好者は年々増加傾向にあり，今年は昨年以上に盛況でした。こうした中，博物館では協力事業として臨時のミュージアムサロンやデモンストレーションを行いました。日頃は博物館職員によるデモンストレーションが行われておりますが，この日は古楽フェスタに出演されたプロの演奏家の方々に，展示されている古楽器を演奏していただきました。同じ楽器でも普段とはちょっと違う？本格的な演奏と古の楽器の音色に来館者もじっくりと耳を傾けていました。またミュージアムサロンでは，春日井リコーダーアンサンブルとホルボーンコンソート(名古屋市・ヴィオラ・ダ・ガンバのアンサンブル)の皆さんがプロ顔負けの素晴らしい演奏を聴かせてくれました。

会員募集中！

浜松市楽器博物館友の会が発足します

日本で唯一の公立楽器博物館である当館も開館８年目を迎えます。今までに６０万人余の方に入館していただきましたが，これからも，皆さんに一層親しんでいただけるよう，４月から友の会が発足することになりました。６月８日（土）には設立記念コンサートも予定されています。みなさん，会員になってみませんか？

■目　的：会員相互の自主事業や博物館スタッフとの交流を通して楽器博物館の活動をサポートし，楽器や博物館活動についての自己の知識と教養を深め，楽器博物館の発展を支援します。

■年会費：大学生以上　２，０００円
　　小中学生・高校生　１，０００円

■活　動：学習会，見学会，ワークショップ，博物館スタッフとの交流会などの自主活動。博物館入館無料（常設展年４回，特別展年２回）やミュージアムショップでの割引など特典もあります。

■申込み：詳しい案内と入会申込書は楽器博物館で配布しますので，直接お越しになるか電話でお問い合わせ下さい。

◆博物館日誌

1／6.13.14.20.27
　　展示室ガイドツアー
1／2　ミュージアムサロン「新春の調べ」
　　出演：大谷康(尺八奏者)，竹山香緒里(箏奏者)
　　参加者：60人
1／19～2／11　新着資料展　参加者：３,737人
1／19　　講座「楽器の中の聖と俗」第３回
　　「陸奥（みちのく）に舞うオニ・シカ・トラ」
　　14：00　研修交流センター61研修交流室
　　講師：西岡信雄(大阪音楽大学学長)　参加者：58人
2／3.10.11.17.24
　　展示室ガイドツアー
2／17　　レクチャーコンサート
　　「トロンボーン～甦るルネサンスの響き～」
　　14：00　研修交流センター21音楽セミナー室
　　出演：大阪サックバット・アンサンブル
　　参加者：187人
2／25～27移動博物館(浜松市立与進小学校)
3／3.10.17.21.24.31
　　展示室ガイドツアー
3／3　　ミュージアムサロン「笛・ふえ・フエ」
　　出演：嶋和彦(当館職員)　参加者：60人
3／26～　特別展「アフリカの楽器」

◆12月～２月の観覧者数

	12月	1月	2月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	2,638	3,457	3,869	9,964	460,217
中人	40	53	231	324	18,030
小人	539	473	663	1,675	104,020
幼児	131	312	247	690	27,227
計	3,348	4,295	5,010	12,653	609,494

◆これからの催し物

●展示室ガイドツアー
　4／7.14.21.28.29　5／5.12.19.26　6／2.9.16.23.30
　催し物により変更もあります　展示品の解説

●ミュージアムサロン
　4／28，　5／5「サンザワークショップ」
　6／2，7／28，8／18，9／22，10／13，11／23，12／22，1／2，2／16，3／21内容未定
　時間は開催日により異なりますのでお問い合せ下さい

●展示品の演奏デモンストレーション
　毎日10：00～16：00　一時間毎

●特別展「アフリカの楽器」
　3／26(火)～5／6(月)　地階展示室
　タンザニアをはじめとしたアフリカの楽器と音楽文化を紹介します。

●特別展講演会「アフリカの音と風」
　4／20(土)　アクトシティ研修交流センター
　講師：各務美紀(アフリカ音楽ジャーナリスト)

●特別展ミニコンサート「アフリカの楽器で楽しもう」
　5／4(土)14：00　楽器博物館地階展示室
　出演：ロビン・ロイド(アフリカ音楽演奏家)

●ジャワ・ガムランワークショップ
　5月，6月，7月　小・中学生クラス，大人初級クラス，大人中級クラス

●企画展「竹の楽器」
　7／20(土)～8／31(土)　地階展示室
　日本をはじめ，世界の竹の楽器を紹介します。

●竹の楽器づくりワークショップ
　8／22(木)14：00　講師：当館職員

●レクチャーコンサート「竹の楽器～ジュゴッグとその仲間たち～」
　8／25(日)14：00　研修交流センター21音楽セミナー室
　演奏：スカル・サクラ(名古屋音楽大学打楽器演奏グループ)
　お話：栗原幸江(名古屋音楽大学教授)

●レクチャーコンサート
　「プレイエル・ピアノ～ショパンの愛した響き～」
　9／15(日)14：00　研修交流センター21音楽セミナ
　演奏とお話：加藤一郎(国立音楽大学助教授)

●スティールドラムワークショップ
　9月，10月(詳細未定)
　小・中学生クラス，大人クラス
　講師：鈴木伴英（日本スティールドラム振興会会長）

●講座「楽器の中の聖と俗」全３回　14：00
　9／7(土)「ウソとホラはなぜ“吹く”のか」
　10／5(土)「音痴の真相」
　11／9(土)「音楽界の女対男」
　講師：西岡信雄(大阪音楽大学学長)　研修交流センター

●企画展「ハーモニカとリードオルガン」
　10/16(水)～11/24(日)　地階展示室
　明治以降の日本の洋楽を支えてきた，２つの楽器を紹介します。

●レクチャーコンサート「ハーモニカとリードオルガン～日本洋楽事始め～」
　11/17(日)14：00　研修交流センター21音楽セミナー室
　演奏とお話：佐藤泰平(東北大学非常勤講師)
　　神谷嘉孝(日本ハーモニカ振興会)

●レクチャーコンサート「クラシカル・ギター～19世紀の名器とともに～」
　12/15(日)14：00　研修交流センター21音楽セミナー室
　演奏とお話：福田進一(ギター)

●新着資料展
　12/14(土)～2／16(日)　地階展示室
　2002年に収集した楽器を披露します。

●レクチャーコンサート「フォルテピアノ～ベートーヴェンとその時代～」
　2／9(日)14：00　研修交流センター21音楽セミナー室
　演奏：小島芳子(フォルテピアノ)，鈴木秀美(バロック・チェロ)
　お話：笠原潔(放送大学助教授)

●特別展「楽器と20世紀」
　3／25(火)～5／6(火)(予定)地階展示室　※特別展観覧料が必要です。
　楽器にとっての20世紀とは何だったのか，歴史と未来について考察します。

講座・ワークショップは無料・要申込
レクチャーコンサートは　一般1,200円，学生600円

利　用　案　内

開館時間：火曜日～日曜日　午前９：30～午後５：00
休　館　日：月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、

常設展観覧料：	個人	団体（20人以上）	団体（80人以上）
大人（大学生以上）	400円	320円	240円
中人（高　校　生）	200円	160円	120円
小人（小・中学生）	100円	80円	60円

※館内には、手荷物の持ち込みはできません。

浜松市楽器博物館だより
平成14年４月１日発行　No.27
編集　浜松市楽器博物館
〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108－1
ＴＥＬ．053－451－1128
ＦＡＸ．053－451－1129
URL:http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/
gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp
印刷　株式会社シバプリント